

[成果情報名]ブルーサルビア植栽による露地ナスのアザミウマ類天敵の定着技術

[要約]露地ナス栽培において圃場周縁にブルーサルビアを植栽することによりアザミウマ類の土着天敵の定着を促進し、アザミウマ類防除に活用できる。

[キーワード]露地ナス、アザミウマ類、ブルーサルビア、ヒメハナカメムシ類

[担当]農業技術部・資源循環研究室・病害虫管理グループ

[代表連絡先]電話 083-927-0211

[研究所名]山口県農林総合技術センター

[分類]普及成果情報

---

[背景・ねらい]

露地ナスのソルゴー囲い込み栽培は、アザミウマ類の土着天敵定着効果が不安定なため、必ずしも減化学農薬につながっていない。よって、新たな植生管理により安定的にヒメハナカメムシ類を定着させ、アザミウマ類の被害を低減する技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. ブルーサルビアは、アザミウマ類の土着天敵であるヒメハナカメムシ類、アカメガシワクダアザミウマ、クモ類が多く定着する（表1）。
2. ブルーサルビアにはナスを加害するアザミウマ類の発生も認められるが、被害が問題となりにくいヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマが優占種であり、ナスの傷果が問題となるミナミキイロアザミウマの発生はほとんどない。また、その他のナス害虫の発生も少ない（表1）。
3. 露地ナス栽培においてブルーサルビアを導入した場合、ヒメハナカメムシ類が定着し、ナスを加害するアザミウマ類の発生が抑制される（図2、表2）。
4. ブルーサルビアの播種は、ナス圃場の畝立てやソルゴー播種の作業時期に合わせて行うと効率的であるが、播種時期が遅れると開花時期が遅くなりヒメハナカメムシ類の発生量が少なくなるので、6月上旬までに行う。圃場周縁の畝に6.5ml/100mの種子を2条で直播する（図1）。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：露地ナス生産者
2. 普及予定地域、普及予定面積：近畿・中国・四国地域露地ナス2,000ha
3. その他：栽培圃場が連作、前年休耕の場合、雑草が繁茂し除草に労力を有するため、移植による導入が望ましい。ブルーサルビアの種子代は、6,000円/100m程度である。アブラムシ類も対象とする場合、ソルゴー囲い込み技術を併用する。

[具体的データ]



図1 ブルーサルビアの導入状況

表1 天敵温存植物における害虫・天敵の発生状況

| 区名                   | 種類 | 7~11月累計       |     |
|----------------------|----|---------------|-----|
| ブルーサルビア<br>開花日：7月25日 | 害虫 | アザミウマ類        | 288 |
|                      |    | アブラムシ類        | 23  |
|                      | 天敵 | ヒメハナカメムシ類     | 16  |
|                      |    | クモ類           | 20  |
|                      |    | アカメガシワクダアザミウマ | 25  |
| マリーゴールド<br>開花日：7月16日 | 害虫 | アザミウマ類        | 112 |
|                      |    | アブラムシ類        | 23  |
|                      | 天敵 | ヒメハナカメムシ類     | 6   |
|                      |    | クモ類           | 7   |
|                      |    | アカメガシワクダアザミウマ | 2   |

注1)20花当たり成幼虫数

注2)播種日：平成23年6月3日

注3)アザミウマ類は8月まではヒラス<sup>®</sup>ハナアザミウマ、9月以降はハナアザミウマが優占

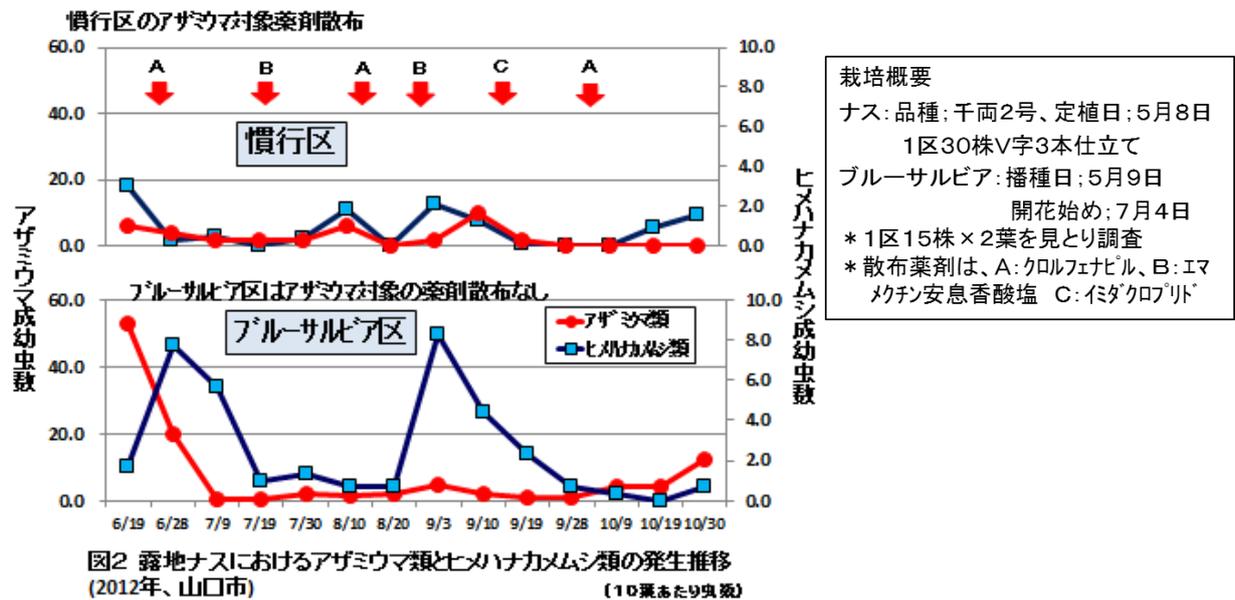


表2 ブルーサルビアにおけるヒメハナカメムシ類の発生状況

| 調査月日    | 8/20 | 9/13 | 10/31 |
|---------|------|------|-------|
| 成幼虫数(頭) | 17   | 21   | 1     |

注)2012年、山口市

注)20花あたり成幼虫数

(河村俊和)

[その他]

研究課題名：露地ナスにおける植生管理等を利用した主要害虫の総合防除体系の確立

予算区分：交付金

研究期間：2010～2012年度

研究担当者：河村俊和、東浦祥光